

## 7月24日（月）その47 夏の日の思い出－クイラ川の下がり花－

もう夏休みなので、今日はまったりとした話をします。「自己開示」というコンセプトで聞いてください。西原町の7月号の広報誌の表紙は、このきれいな「さわふじ」の写真です。（見せる！）さわふじは下がり花とも言います。私の家の庭にも15年ほど前に植えたものが一本、今では4～5mの高さまで成長し、毎年きれいな花を咲かせています。

でも私が見た一番キレイな下がり花は、クイラ川で見たものでした。

私が西表島の船浮中学校に本務採用になったのは、昭和55年（1980年）のことだ。船浮は「陸の孤島」と言われていて、同じ西表島にあるのに他の集落に通じる道路がないので、白浜からモーターボートを備船（一回2,000円）して船浮に渡るのだ。今は定期船が一日5～6回就航している。集落の人口は30人ほどで、シティーボーイには耐えられない環境だったが、私はカントリーボーイだったので、とても楽しく3年間を過ごすことができた。

船浮湾は一番海の深い所が84mもあった。湾の出口を二つの無人島がふさいでおり、昔から波が穏やかな天然の良港で「国際避難港」に指定されていた。台風などが近づくと、外国航路の貨物船や台湾漁船などが避難してくるので、海の上は集落よりもライトが明るく賑やかであった。広い湾内に直径4mくらいの大きな係留ブイが9つもあり外国船はそこに係留するのだ。やろうと思えば、簡単に「麻薬などの密輸」ができるのではないのか？と思った。だからなのか、海上保安庁の警備艇が頻繁に来ていたな！

船浮湾の奥にはクイラ川があり、その両岸にはマングローブがひしめいていた。上流にいくと「下がり花」が生い茂っていたが、船浮やクイラ川まで来る観光客はほとんどいなかった。せいぜい白浜から河口の「落水の滝」をボートで観光するくらいだった。

私は地元の人から手こぎボートを借りて30～40分漕いでいき、クイラ川の奥深く探検するのが好きだった。特に夏の早朝は暑くもなく、静まりかえった山と穏やかな川面をゆっくりと上流まで入っていくと、川面一面に下がり花がひしめくように浮いていて、幻想的で幽玄な趣があった。

こんな感じですね。（ネットで入手した、川面に広がる「下がり花」の写真を見せる。）それをたった一人で独占しているのだから、とてもぜいたく。

ふと自然と同化したくなった。そこで着ている服を全部脱ぎ、全裸でひとときを過ごした。「……太陽がいっぱいだ！（笑）」

また集落の裏の方に「イダの浜」という非常にきれいな浜があった。そこもほとんど人は来ないが、そこから海岸沿いに左の方に歩いていくと全く人の来ない砂浜がいくつ続いている。しかもイダの浜側からは、小さな岬に隠れて見えない。そこでも私は服を全部脱ぎ、素っ裸で浜を歩いたり泳いだりした。「自然と同化したい！」というピュアな気持ちだったのですよ。（笑）

西原町広報誌の「下がり花の写真」を見て、久しぶりに「クイラ川のさがり花」や「全裸体験」を思い出した。そう言えば、これネットで発信するんだよねえ。まあ、40年も前のことだし誰にも迷惑はかけていないから……いいや。きっぱりと言っておきますが、私は、「ストーリーキング」や「見せ見せおじさん」など、一度もやったことはありませんよ。（笑）

## 7月25日（火）その48 私たちは歴史を見ている ―白鵬の記録―

大相撲7月場所（名古屋場所）は、横綱白鵬が14勝1敗で39回目の優勝をし、さらに1,050勝という前人未踏の記録を打ち立てました。すごすぎる白鵬の記録。彼は間違いなく平成で最強、長い相撲の歴史上でも1, 2を争う大横綱だと思います。通算勝利1,050勝、幕内勝利954勝、優勝39回（7連覇と6連覇がある。）、全勝優勝13回（4場所連続全勝を含む）、連続二桁勝利51場所、8日目勝ち越し43回、年間勝利86勝などなど……。

唯一破れなかったのが「神様・双葉山」の69連勝（白鵬は63連勝）と5連続全勝（白鵬は4連続全勝）だけである。でも双葉山の時代は、年に2場所だけだから69連勝はすごい記録である。

規格外れの強さを支えるのは、相撲を取る前の基礎運動（股割り、四股、てっぼう、すり足等）をたっぷりと時間をかけて行うからだそうだ。体の準備をするルーティンは、イチローにも勝るとも劣らない。だからけがをしないのだ。将来を囑望された選手が、けがでつぶれていったのは、どのスポーツでもたくさんいる。

3～4年前、NHKスペシャル「横綱白鵬 ～“最強”への挑戦～」という番組を見たことがある。最新の科学を駆使して白鵬の強さの秘密に迫る試みが行われていた。白鵬の瞬発力とか柔軟性などの身体能力について、科学的なデータで「すごさ」を証明して見せていた。白鵬のお父さんはモンゴル相撲の第一人者で、メキシコオリンピックのレスリング銀メダリストだそうですから、親から引き継いだ才能・素質もあったのだろう。

しかし15歳で日本に来たとき、ひょろっとしておとなしく目立たない存在で、どの部屋も引き取り手がなく、どうにか宮城野親方に拾ってもらったのだそうだ。事実、番付が序の口、序二段、三段目といった下位の時は、あまり大勝ちをすることもなく、注目もされずに上がってきたそうだ。

内藤堅志（ないとう・けんし）さんという大学院を卒業したプロのストレスマネジメントをする方が書いた「白鵬のメンタル」という本を読みました。

内藤さんによると、白鵬はけして素質もすごくはなかったし、メンタルも強くはなかったそうです。白鵬も、不安にさいなまれ挫折感を味わい、周囲に弱い自分をさらけ出していたんだそうです。

弱い心を持ったままでも「問題を解決する能力を身につけていく」ということができることが大切で、結果としてこの力が人のメンタルを強くしていくと、内藤さんは言います。まさに白鵬は、そうだったと言っています。弱い心を持ったままでも問題を解決する能力を身につけていくことが、結果的にメンタルを強くすることにつながったというのです。

内藤さんは、「才能とは何か？」についても書いています。「天賦の才とか生まれつきの能力ととらえるのではなく、『自己の能力を最大限に発揮できる力』が才能だと考えた方がいいという。そのために、次の5点をあげています。①性格が素直である。②自分で考える力を持っている。③うまくいったときの感覚を知っていて、言語化できる。④自分の武器を知っている。⑤時間の使い方がうまい（詳細に説明していますが、省略します。）。

「日本人ではなくモンゴル人だ！」と島国根性の人種差別も確かにあるけど、マゲを結って土俵に上がっている以上は日本人もモンゴル人も関係ない。白鵬は間違いなく双葉山同様「神の領域の力士」である。

## 7月27日(木) その49 毎週100人の方がHPを見て下さっている！

「5分間所長講話」を6月にHPにアップしました。そして何名訪れたのかわかるようにカウンターを付けてもらいました。6月からの8週間で約800人の方に見ていただきました。同じコンピュータからは、一日に何回開いても一回分しかカウントされません。毎週100人くらいずつ増えていっているの、たぶん100人くらいの方がパソコンやスマホで、継続して所長講話を読んで下さっていると思います。大変嬉しいです。感謝、感謝、感謝！

HP開設の広報活動は、6月から本教育研究所を訪問する皆さんにご案内したり、また島尻教育事務所の研修会を通して、紹介していただいたりしています。島尻教育事務所と島尻教育研究所は、管轄する地域が全く同一で島尻地区の10の市町村をカバーしています。

「島尻は一つ」なので、連携・協力して「島尻地区の子ども達のために！」教職員の資質向上を図っていききたい。また5～6人、私がよく知っている他地区の校長先生等にも紹介したので、広く「沖縄県の子ども達のために！」教職員の資質向上のお手伝いができたらと思っています。

一番教員の資質が伸びる研修は「自己研修」だと思っています。自ら求めてくる方々が私のつたない文章を読んで伸びるのではなく、自らの感受性でそれぞれが刺激を受けて、自らの自己研鑽力で伸びていくのです。

私も週3回1,600字程度の文章を書き続けることは、楽ではない。島尻教育事務所との連携やHPアップで、多くの方々にPRしているし、私自身の「甘えの退路」を断っているのです。「できる！」と、自分を追い込んで、多くの方が刺激を受けてくれるような所長講話を作成したいと思っています。

最近3人の方から感想が届いていました。本人達の詳細を得ていないので、個人が特定できない部分のみを紹介しましょう。

○大城所長の講話を私もタイムリーに拝見できるなんて幸せです。時事問題とからめながら、問題提起していただいたり、心をゆさぶっていただいたりと、プリントアウトしてマーカーを手に勉強させていただいてます。職場の皆にも勧めています。

○ひょんなことで島尻研究所のホームページを開きました。所長講話があって、見覚えのある文章形式、読み覚えのある文章が飛び込んできました。すぐに「大城朗先生の文章だ」と、わかりました。懐かしくて、楽しくて、思わず仕事も忘れて読んでしまいました。実は今、疲れ気味だったので、元気をもらいました。まさに栄養ドリンクです。ありがとうございます。さっそくですが、講話の内容を使わせていただきました。

○「前回私の恋人を奪った男がいた」という話をしましたが、もう一人いました……。最初に(その37)を読みました。元義務課長なので「もっとお硬い話」を想像していました。面白くて講話にはまってしまい、全てのページを読了しました。なんと普段着の文章で、ユーモアがあり、かつためになる。引き出しが数知れずあるんですね。

しかも「THE NEXT ONE」で、情報収集のアンテナを常時張り巡らせている。その姿勢や努力に感嘆しました。私も頑張ります。ありがとうございます。毎週楽しみにしています。